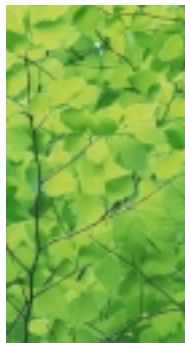


京都市立東山小学校（京都府）



1. 地域特性

東山小学校は、東山と鴨川の間で、近隣に寺社仏閣が数多くある中心市街地に立地している。京都市街地の小学校は明治2年に、当時の自治の単位である「番組」ごとに町衆によって開校したものであり、現在でも地域住民の学校に対する思いは大変強い。

2. 事業の経緯

市街地において児童数減少が続き、地域住民から小学校の統合の希望が出され、修道小学校と貞教小学校の暫定的な統合が検討された。京都市では行政主導ではなく、地域主導で統廃合問題を検討している。よって適正規模に達しない組み合わせであっても、地域の要望があれば統合を行なっている。適正規模に達しな

い統合は暫定統合と位置づけ施設は既存学校施設を活用することとしている。今回は修道小学校の施設を改修して統合校とする計画であった。

京都市は地域毎の公民館は設けられておらず、学校が地域住民の集会や生涯学習の場として利用されている。修道小学校時代の平成11年に地域の生涯学習の拠点として「ふれあいサロン」が本館2階に整備されており、地域に活発に利用されている。今回計画においても、地域利用を意識した計画となっている。



耐震補強ブレース



図書室



北校舎外観



図書室



地域開放用入口

3. 事業の内容

施設全般にわたるリニューアルが実施された。中でも特別教室棟は重点的に整備されている。北校舎は、耐震補強とあわせて、内部改修を積極的に行い、教育スペースの充実及び地域利用への対応が図られている。

図書室は、内装を木仕上とし家具も木製のものが使用されている。また一角には子どもがくつろいで読書できるカーペット敷きの読書コーナーが設けられている。地域開放対応としては、専用の玄関が設けられている。多目的室兼ランチルームは、本格的な和室として改修されており、食事スペースや集会スペースとして、また地域の人々との交流の場となるよう改修されている。その他特別教室も、内装を木仕上とし温もりのある空間とし

ている。トイレは、改修前は倉庫であったスペースに、ガラスブロックを用いてデザインされたものが新設されている。なお、耐震補強については、一部にブレースを新設することで対応している。

4. 成果と課題

北校舎は、図書室に地域開放用玄関を設けたり、地域の人々との交流の場として活用できる和室を設ける等、地域の生涯学習の受け皿となりうる施設となっている。今回の計画は暫定的な統合という事情で行なわれたものであるが、他のケースにも参考になる事例といえる。ただし京都市は地域と学校の関係について「番組」という背景を持っているためうまく運営できているともいえる。



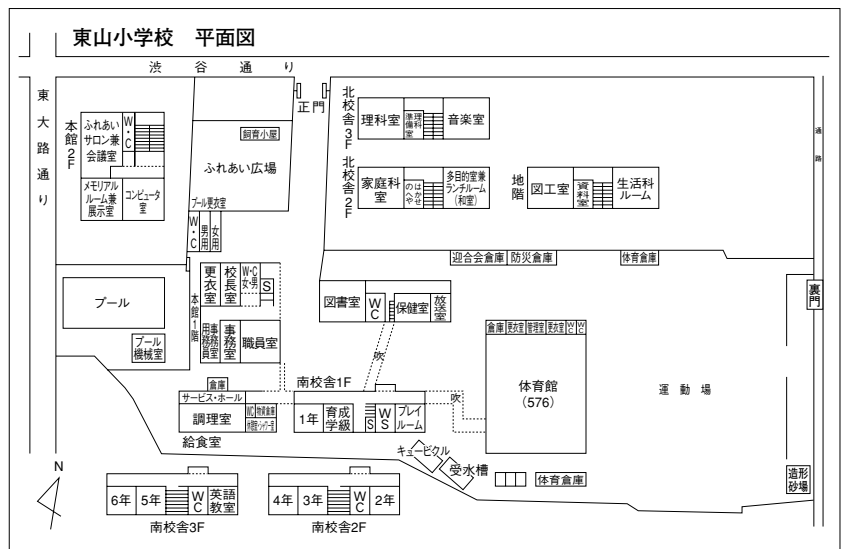
図工室



多目的室兼ランチルーム



新設されたトイレ



学校平面図(改修後)